

深見 迪
議員

「ファミリーサポート」事業の早期実施を 町長 設置に向けて取り組む

問 親が安心して働くことができるようにするための働く親の勤務形態による「幼児、児童の送迎や預かり事業」など、いわゆるファミリーサポート事業の実施を町は約束していたが、まだ実施に至っていない。

管内の実施市町村すべてについて調査したが、すべてが実施主体となっている。ファミリーサポート事業についての私の二度目の質問は、昨年の3月議会だったが、それから1年半経過している。町の取り組みの状況はどうなっているか。

働く親のみなさんの実態を見ると、コンビニ店員や酪農ヘルパー、介護員など勤務時間が保育園や学童保育の時間帯から外れていて非常に困難を抱えている状況もある。また、急に軽度の病気で子どもが学校から

帰らざるを得ない場合など、急に仕事を休めない実態もある。一刻も早く事業展開をすべきと考えるがどうか。

また、事業を実施するとアドバイザーなど新たな雇用も生まれると考えるがどうか。

答

ファミリーサポート事業については、検討していきたいと考えていた。社会福祉協議会と実施主体について協議を行ってきたが、事業実施主体等が決まらず、まだ設置できない状況にある。また、病児対応に視点を置き、病院等での展開も検討してきたが実施には至っていない。

事業の必要性、重要性については十分認識しており、設置に向けて取り組む考えに変わりはない。

管内では、社会福祉協議会を中心に行われているので、これらの実施状況を参考にしながらさらに検討を進めていきたい。

一般質問 町政を問う

今夏の節電状況と冬の見通しは

黒沼俊幸
議員

町長 町内各機関と連携し備えていく

問

北電の泊原子力発電所の稼働停止により、7月23日から9月14日まで節電を呼びかけている。町民もこのことを理解し、節電に取り組んでおり、現在は心配した停電もなく推移しているが、役場庁舎をはじめとする公共施設はどのように取り組んでいるのか。

また、昨年の同時期と比較して節電の状況はどのようになっているか伺う。

本町の酪農家には計画停電のグループ表が配られた。例えば午前8時30分から11時、午後6時30分から午後9時までのグループなどとなっている。

停電が行われる時は、時間をずらして搾乳を行うよう計画されている。秋は、平常に推移すると思われるが冬にかけては夏以上の節電が必要と聞いている。北電、農協、商工会などを中心とした節電対策の連携は万全か伺う。

答

町として計画停電をさせないよう、役場庁舎及び公共施設では、平成22年度と比較して7パーセントの節電を目標として取り組んでいる。7月の9日間の実績では9.6パーセントの節電実績となった。8月はこれ以上の節電となると予想している。

冬期間の電力需給見通しについては、新聞報道では北電の会見で「1.4パーセント不足の見通し」となっている。今後、釧路地域電力需給連絡会議での説明により、その対応を検討し、町内各機関と連携し備えていきたい。



問

今年度4月1日付で北海道水資源の保全に関する条例が制定された。目的は北海道の豊かで清らかな水は道民のかけがえのない財産であり、次世代に引き継いでいくため、全ての人が一体となって水資源の保全に取り組み、水源周辺の土地が適正に利用されることを目指すものである。

このたび標茶町多和地区が保全地域に係る指定の区域として指針(案)が告示されたが今後の取り組みなど2点について伺う。

松下 哲也
議員

水資源の保全に対する取り組みを

町長 必要性に応じ提案していきたい

① 本町には水源地域が6ヶ所あり、全て地下水、湧水で全国的にも誇れる財産である。全ての水源地を保全地域に指定すべきと考えるが多和地区の指定の経緯と残りの地区の指定に向けた取り組みを伺う。

② 水資源の保全に対する町民、事業者及び土地所有者等の理解と促



— 豊かな水資源 —

答

町内7ヶ所の水源のうち一番給水人口が多い水源であり、農地法や森林法など他の法律の規制が少い事などから、第一、第二ポンプ場を同一水源と考え半径一キロメートルの範囲を指定した。残り5ヶ所の水源については、指定の必要性が高いと判断した場合に提案していきたい。また、制度内容の普及と啓発を図るべく北海道と連携し広報誌等を通じ周知していく。「森と川の月間」ではどのような取り組みが可能か検討していく。

後藤 勲
議員

しべちや斎場の清掃業務を委託できないか

町長 状況を見ながら判断

問

しべちや斎場の改築により、清掃面積が広範囲になり利用者に負担がかかっている。火葬が終了した後、利用者が清掃を行っているが、清掃に時間がかかるためその後の法要等に間に合わないこともある。この様なことから、しべちや斎場の清掃業務は利用者ではなく、専門の会



— しべちや斎場待合室 —

答

社に委託するなどし、利用者の負担を軽減することは出来ないか、また年に数回は大掃除も必要と考えるかどうか。

現在も町民の負担軽減を図りながら待合室、休憩室のみの清掃を実施しているが、その後、管理人が施設全体のガラス清掃を行っている。なお施設全体の清掃や大掃除などについては、委託料を予算計上しているので今後状況を見ながら専門業者に委託も考えている。

酪農学園大学との協定の積極的事業展開を

長尾式宮
議員

町長 交流が深まるよう働きかけていきたい

現時点では標茶町農業協同組合・酪農学園大学間で酪農業に関する調査データがフィードバックされていることは伝え聞いているが、その他にこの「地域総合交流に関する協定」に関わる事業がどのように展開されているのか、その進捗状況

を伺う。また、酪農学園大学講師による一般向けの講演会を開き、地域産業・環境への関心、ひいては「地域総合交流に関する協定」の有益性を町民に実感してもらう事も必要ではないかと思うが所見を伺う。

昨年4月に酪農学園大学・標茶町・標茶町農業協同組合・北海道標茶高等学校の4者間で「地域総合交流に関する協定」が締結された。酪農学園大学は標茶町の産業・文化・生活・観光・教育等の振興と発展に協力、標茶町は、酪農学園大学の環境システム学部・酪農学部の研修受入等の教育研究推進事業に協力するなど、相互に関心のある課題について交流を促進し、研究者及び研究分野において、連携協力を推進していくと記されている。

進捗状況としては昨年度において3回の研修会を実施し、本町農業の分析、エゾシカ対策、家畜ふん尿の管理と利用、畜舎排水、GISの運用をテーマとした。またJAの中期計画策定にあたり現状分析と問題解決の方向性についてデータ作成や助言を得た。

町民参加型としては、3月に開催したエゾシカ活用フォーラム「エゾシカを食卓に」は50名を超える参加があった。今後積極的に関画し、協定者相互の交流に努めていきたい。



キャンプ場の施設整備の充実を求める

鈴木裕美
議員

町長 護岸整備は難しい

町のキャンプ場は、地域住民の健康増進と自然体験を通じた交歓、学習、旅行及びレクリエーションの場並びに地域住民と都市住民との交流の場としての利用に供することを目的として、4ヶ所設置されている。4ヶ所のキャンプ場それぞれ利用者層も異なっているが、利用状況や利用者の声などのように把握しているのか伺う。虹別オートキャンプ場は、平成十二年に設置され、町内をはじめ道内、道外からの利用者も多く、週末等はコテージや各サイトの空きがない状況と聞いている。使用料が安価で、清掃管理が行き届いている。そして森林浴、つり、遊びの広場があり、緑豊かな大自然の中の施設として好評を得ているが、家族連れで二三日滞在するのに水遊び場の設置をとの要望を聞いて

虹別オートキャンプ場は、シユワンベツダムの景観を利用するように整備され、フィッシングの場として利用され水遊び場としての親水護岸整備は難しいと考える。

一つの施設で全てを満足させることは条件が厳しいが、運営委員会と情報交換を行い満足度を上げ、利用者への増に向けた施設管理を行っていく。



— 虹別オートキャンプ場 —